

1 梨の生育状況

梨の結実は、いずれの品種もやや少ない～少ない園地が多く、果実の大きさや果形にばらつきが見られます。

梨の果実肥大は、7月10日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が53.0mmと前年並、平年と比べやや大きくなっています (前年値54.3mm 平年値51.0mm)。なお「幸水」で裂果の発生が目立っています。

虫害は、カメムシ類が山手・平場とも、平年よりもトラップに多数誘殺されており、今後の発生についても、注意が必要です。

2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

7月14日の発病状況調査結果では、いずれの品種も発生は少なく、果実への発病は、本年6月中旬調査からほとんど増加しておらず、過去3年間の同時期と比較しても少ない状況です。

表 R2年 黒星病発生状況(調査日:7月14日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	0.8	0.4	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
豊水	27	1.3	0.4	0.0	0.3	0.6	0.1	0.0	0.0
新高	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	0.8	0.3	0.0	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0

【参考：昨年同時期の発生状況】

表 R元年 黒星病発生状況(調査日:7月16日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	2.6	0.7	0.1	0.3	1.4	0.1	0.1	0.0
豊水	27	2.9	0.2	0.1	0.3	1.9	0.2	0.3	0.0
新高	14	0.6	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	2.0	0.5	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	2.4	0.5	0.1	0.3	1.3	0.1	0.1	0.0

②気象データによる感染危険度・発病危険度(千葉梨防除ナビより)

黒星病の発生は、過去3年間の同時期と比較しても少ない状況ですが7月の感染危険度指数が高くまた、現在、「幸水」の果実に感染しやすい時期であること等から、引き続き発生防止対策の実施が極めて肝要です。

<黒星病感染危険度の発生回数および指数>

	4月	5月	6月	7月(15日まで)	計
R2	0 (0)	1 (1.2)	8 (2.9)	10 (4.5)	19 (3.7)
R元	1 (1.5)	2 (1.6)	7 (2.6)	2 (1.7)	12 (2.2)
H30年	7 (4.6)	10 (5.7)	4 (2.8)	4 (6.7)	26 (5.1)
H29年	3 (1.9)	9 (2.4)	15 (3.4)	8 (3.7)	35 (3.1)

※ () 数値は、感染危険度指数 (0~9 までの10段階評価で、数値が大きいほど危険度が高い)

☆重要☆

●収穫期間中の黒星病の発生を抑えるためには、収穫直前まで、発生した果実、葉の病斑を除去して、ほ場外に持ち出し、感染源の密度を低下させることが極めて重要です。

3 これからの防除について

☆秋型病斑葉の発生抑制のため、「幸水」収穫終了後と「あきづき」収穫終了後の防除を実施して下さい。

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除 実施日
16	7月23日～25日	ネクスターフロアブル 1,500倍 (SDHI 剤) オーソサイド水和剤 80 1,000倍	前日 3日	300 リットル	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ 病	
17	8月2日～4日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 リットル	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、 ハマキムシ類、 カメムシ類	
特散	8月7日～8日 <u>防除前に草刈りを!</u>	マイトコーネフロアブル 1,500倍	前日	<u>400</u> リットル	ハダニ類	
18	9月上旬 (「幸水」収穫終了後)	ナリア WDG 2,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	前日 前日	300 リットル	黒星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類、 カメムシ類	
<p>※ナリアWDGは、全品種が防除対象となります。 ※アグロスリン水和剤は、「幸水」以外の品種(これから収穫される品種)が防除対象となります。</p>						
19	10月上旬 (「あきづき」 収穫終了後)	オーソサイド水和剤80 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	
<p>※オーソサイド水和剤80は、全品種が防除対象となります。</p>						

【注意事項】

- (1) これからの防除は、収穫期間近あるいは収穫期間中となるので農薬の使用基準(収穫前日数)に十分注意して下さい。
「収穫前日」の場合、散布後24時間以上あけて収穫し、周囲の収穫園にも気を配りましょう(収穫中の梨にかかった場合は、収穫は散布後24時間以降に実施して下さい)。
- (2) マイトコーネフロアブル散布後、再びハダニ類の発生が見られる場合は、コロマイト水和剤(2,000倍、収穫前日まで、400リットル/10a)を散布して下さい。
- (3) **ハマキムシ類およびシンクイムシ類対策として、7月末頃にコンフューザーNを50本/10a追加設置下さい。**
- (4) 徒長枝や予備枝などへの黒星病(秋型病斑葉)の発生を抑制するため、「幸水」収穫終了後と、「あきづき」収穫終了後の防除(ナリアWDG及びオーソサイド水和剤80)を実施して下さい。
(※防除日は、「幸水」「あきづき」の収穫状況を見極めて決定し、9月初旬頃および10月初旬頃にお知らせします)

4 除草剤の使用基準について

非農耕地用の除草剤を梨園地内や畦畔等には絶対に使用しないで下さい。

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守して下さい。

- (1) 収穫前日まで使用可能：バスタ液剤(年3回以内)、プリグロックスL(年5回以内)
- (2) 収穫7日前まで使用可能：ラウンドアップマックスロード、
サンフーロン液剤、草枯らしMIC(合わせて年3回以内)

5【富山市からのお知らせ】生産者のパート・アルバイト募集情報について

コロナウイルスの影響で不足が予想される各生産者のパート・アルバイトの求人情報を富山市のホームページに掲載し募集します。掲載を希望される方は申込書をお渡ししますので選果場にお越しください。

補正摘果基準表が必要な方は、資料をお渡ししますので選果場にお越しください。